

学校教育目標 【鶴見小学校学校教育目標】「つよいつよいつるみっ子」「力を合わせるつるみっ子」「まちが大すきつるみっ子」

- (知) 主体的に考え、身に付いた知識や技能を使ってよりよく課題を解決しようとする子
- (徳) 人を思いやるとともに、自分のよさや可能性に気付いて、様々な変化に柔軟に対応しようとする子
- (体) 継続的に運動に親しみ、健康でたくましい体をつくろうとする子
- (公) まちの一員として自分の役割や働きに気付き、まちのために積極的に取り組もうとする子
- (関) 多様性を尊重し、新たな価値に気付いて、よりよい生活を目指して行動しようとする子

学校概要	創立 91 周年	学校長 田中 昌彦	副校長 小笠原 洋平	2 学期制	一般学級: 27	個別支援学級: 8
	児童生徒数: 932 人	主な関係校: 鶴見中学校 豊岡小学校				

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	鶴見中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける育成を目指す資質・能力を踏まえた「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<p>○自ら学びに向かう力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊かにかかわる力 ・生きてはたらく知 ・生き方をよりよいものにしていく力 	<p>鶴見中学校 鶴見小学校 豊岡小学校</p>	<p>『力をあわせて、ともに歩もう』 自分のよさに気づき、愛するまちや人とともに、自分の生き方を切り拓いていく児童生徒を育てます。</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・三校合同で児童生徒理解研修、教科研修、領域研修を行う。 ・9年間で育てる子どもの像 成長目標 を意識し、各校で研修を企画する。 ・体験入学や、部活動体験を行うことで、連携を深める。

中期取組目標	<p>○身近な環境や自分についてのよりよい生活について考え、自分のよさや可能性に気付いて、粘り強く問題解決しようとする子を育てます。</p> <p>○多様な考えを交流し合い、友達と協同するよさに気付いて、集団生活を楽しいものにしてほしいとする子を育てます。</p> <p>○まちで生活したり働いたりしている人々とのつながりを考え、まちのよさや人々の思いに気付いて、まちへの思いを主体的に実現しようとする子を育てます。</p>
--------	--

重点取組分野	具体的取組
<p>知 授業改善</p> <p>担当 指導部C</p>	<p>①単元や一単位時間で育成を目指す資質・能力を明確にした授業づくりをする。本時のめあての確認と振り返りの時間を取り入れ、子どもが主体的に学習を進められるようにする。②重点研究テーマ「自ら学びに向かう子どもの育成～子どもが自己を表現し、学び合う授業づくり～」とし、生活科、総合的な学習の時間を中心に、相手や目的を意識して言葉を選択しながら人と豊かにかかわる力を育成するとともに、教師の授業力指導力の向上を目指す。</p>
<p>徳 豊かな心</p> <p>担当 指導部A</p>	<p>①スタートカリキュラムを軸として、重点研究を行っていく。学校全体で児童を見守っていくという体制をつくる。 ②基礎学力を上げ、児童の自己肯定感を高める。 ③特別活動(学級活動、クラブ、委員会)で児童の自主的な活動を推進していく。 ④道徳のワークシートを統一化し、蓄積していく。 ⑤間違ってもよいという学級風土作り、一人ひとりを大切に児童指導をする。</p>
<p>体 健康教育</p> <p>担当 指導部B</p>	<p>①児童の運動の機会を設け、密を避けた遊びや運動の仕方を提案し、全校児童の運動に対する意欲を高め、体力向上を図る。備品を確保し、児童の運動量・活動量を高める。外遊びを推奨し、体力アンケートを定期的に取りながら分析を図る。 ②健康診断前に、事前指導を行い、健康診断の意味を理解する。健康課題に応じて、発達段階に合わせた健康教育を推進していく。 ③保健学習・指導と食育指導を合わせて健康教育を推進していく。児童会による活動を計画し、年間を通して児童の食に関する興味関心や栄養の知識を高めていく。</p>
<p>公開 自分づくり</p> <p>担当 指導部B</p>	<p>①地域の方やいろいろな職業の方とかわる機会を作り、体験的な活動を通して自分の可能性を広げることができるようにする。 ②行事や学習活動の振り返りを充実し、キャリアパスポートに蓄積していく。児童間や教師、保護者からの評価を自分の成長として自己評価できるようにする。</p>
<p>いじめへの対応</p> <p>担当 指導部A</p>	<p>①年に2回の教育相談、年に1回のいじめアンケートを実施し、積極的にいじめの認知をしていく。 ②いじめの疑いがある場合には即時いじめ防止対策委員会を開き、情報を共有する。 ③年2回のYPアンケートを実施、学級風土づくりや学級経営に活用する。</p>
<p>人材育成・組織運営(働き方)</p> <p>担当 指導部B</p>	<p>①メンター研へ中堅教員が入り、研修の進め方についても支援を行う。メンター自身のためになり、過度な負担にならないメンター研を目指し、改善していく。(定期、短時間で相談会を開催。指導案検討は学年研でできるだけ行うなど) ②職員室内にご意見箱(プラスマイナス両方とも。無記名。)を置き、気付いたことを入れていく。それを教務が定期的にミラリムで公開することで働き方の工夫の共有と、人材育成を行っていく。</p>
<p>特別支援教育</p> <p>担当 指導部A</p>	<p>①教育のユニバーサルデザイン(環境・授業)について学校全体で共通理解を図る。 ②iPadを活用して、児童の視覚的支援や各負担の軽減を図る。 ③個別支援学級と一般学級の交流を推進する。個別支援学級と一般学級の担任が日常的に連絡を取り合い、児童と発達特性に対する理解を図る。また、個別支援学級での取り組みを一般学級の児童が知る機会を設ける。</p>
<p>多文化共生</p> <p>担当 指導部A</p>	<p>①子どもを受け入れる環境づくりを図る。 ②鶴見ひまわりと交流を図る。 ③日常の授業や食育、音楽等様々な教科で他国の文化に触れる。</p>
<p>GIGAスクール構想</p> <p>担当 指導部D</p>	<p>①教師の研修を充実させ、クラスや学年でiPad活用における児童のスキルの差がないようにする。 ②ルール(何のために使用するのか)を職員間でも共通理解し、学校全体で徹底していく。 ③学年に応じて内容の系統性を示せるよう、検証していく。</p>
<p>地域学校協働活動</p> <p>担当 指導部B</p>	<p>①幼保小の交流はコロナ禍においてもできることを行っていく必要がある。そのために、幼保小担当者は年度はじめに連携する保育園(芦穂崎、すずらん)には連絡をし、年間を通してどのような交流を行うことができるかを検討する。(例:オンラインでの交流、オンラインで一日の様子を見せる、ミニミニ美術館で作品の交流など) ②学校運営協議会で出た意見を職員に伝え、職員から伝えたい思いなどを委員の方に伝えることでよりよい協働活動になるよう改善していく。</p>